

青山大人(あおやまやまと) 県議会報告かわら版40号



平成 24 年 3 月 25 日発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2

電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012 メール info@aoyamayamato.net

★ブログでは主に県議会での活動について、フェイスブックでは、日常の活動やプライベートについて公開しております。是非、そちらもご覧になってください。

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～

1979年土浦市生まれ。現在33歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選(当時、全国最年少の都道府県議会議員)。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。2008年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画ロケを地元へ誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。東日本大震災時は翌日から市内の水道復旧状況等をいち早くブログで情報発信し、一日での閲覧者が最大35000件を記録。また、福島県や宮城県への被災地支援活動が新聞等で大きく掲載される。現在、県議会文教警察委員会委員、東日本大震災復興・元気ないばらきづくり調査特別委員会委員、土浦消防団第27分団員(土浦市操法大会へ3度出場)。

●平成24年県議会第一回定例議会。

2月末から約一カ月間、平成24年第一回定例議会が開かれました。議論の中心は来年度予算案と震災復興関連についてです。まずは可決した県の来年度予算の主な内容を説明いたします。

一般会計の予算規模は前年当初比6.5%増の約1兆1080億円で、過去2番目の規模となりました。ただし、東日本大震災関連事業の1062億円を除いた総額では前年当初比3.7%減となります

一般会計の歳入は、税収が前年当初並みの約3070億円で、地方交付税などを合わせた一般財源は前年当初比2.3%増の約7100億円。裏面に歳入歳出の図を入れましたので是非ご覧ください。

さて、復旧復興関連事業では、被災した中小企業等への緊急融資の新規枠として480億円、緊急融資を利用した中小企業を対象に負担軽減のための利子助成1億9千万円、信用保証料に対する助成4億円。港湾や農地農業用各施設などの災害復旧と災害関連事業に122億円。被災した中小企業等グループの施設・設備の復旧支援に74億9千万円などを予算化しました。

経済対策は、中小企業の資金繰り支援として、被災企業の緊急融資ほか、セーフティネット融資に円高対策分を新設し新規枠100億円を予算化。雇用対策は、事業規模で前年当初を上回る135億円(うち県事業95億円)を計上し、7千人以上の雇用創出を目指す内容となっております。

●あの大震災から一年が過ぎました。

今回は代表質問、一般質問でも震災関連の質問が多くを占めました。その中から、一部を掲載します。

・県の危機管理体制の総括について

(知事の答弁要旨)いくつかの市町村で通信が遮断され、連絡が中々取れないところがあった。今後は衛星携帯電話の導入、災害時でも携帯電話が確実に通信できるよう基地局の電源対策や回線の増強を要望していく。災害拠点病院などは、今後3日程度の備蓄を指導。原発事故情報は3月14日までマスコミからの情報しか入らなかった。ベント開放の際も事前に県に何も連絡がなかったことは大変遺憾である。県の防災対策会議は全て議事録を作成しており、今後HPに公開していく。今後、さまざまな記録を集め、今回の大震災の教訓を後世に残していくこと。

・防災情報の発信体制の整備について

(知事の答弁要旨)防災情報の発信体制では、県HP専属の人数を増やす。ツイッターを重要事項と位置づける。県のHPはダウンこそしなかったものの、震災直後は普段の10倍以上負荷がかかる状況も発生。HPサーバの分散配置などアックアップ体制を検討。県内27市町村で、HPなどの情報システムが一部利用できなくなった。また市町村のサーバー室の約6割に非常用電源がないことも発覚。今後、自治体クラウドシステムの推進に取り組んでいく。

●編集後記

紙面があつという間にいっぱいになってしまいました。引き続き次号(41号)にて、青山の委員会での質疑の様子なども伝えていきます。